

本人患者さんへの情報公開文書

「^{すいたいびぶ}膵体尾部がんの^{せつじょごよごふりょういんし}切除後^{たんさくてきけんきゅう}予後不良因子に関する探索的研究」についてのご説明

- はじめに

膵体尾部がんは症状が発現しにくいことから、進行した状態で発見されることが多いといわれています。その結果、周囲臓器である胃や脾臓、腎臓、後腹膜臓器に浸潤し、切除を行なったとしても予後が不良な場合があります。日本膵臓学会膵がん取り扱い規約(第7版)による膵がんの切除可能性分類には、切除可能、切除可能境界、切除不能といった分類があります。膵体尾部がんの他臓器浸潤は腹部大動脈を除いて「切除不能膵」に該当しないものの、予後不良であることからその取り扱いを再考する必要があります。本研究は、膵体尾部がんの患者さんにおける予後不良な因子を抽出し、より適切な手術前治療の是非を検討することを目的としています。

- 研究対象

2001年1月1日～2017年7月31日までに本研究参加施設にて受療し、病理学的に切除後の膵体尾部がんと診断された患者さんを対象とします。

- 症例数；300例(当院90例)

- 研究内容と患者負担

本研究では、病期の診断当初は手術が難しく、抗がん剤治療や放射線治療を受けた患者さんの電子カルテ上のデータを収集し調査いたします。患者さんの日常診療以外の余分な負担や経費は生じません。

- 患者さんの個人情報管理について

得られたデータは、下記のデータセンターに集約され、解析されます。全てのデータに対し、匿名化処理を行ないますので、被験者の方の個人情報は完全に保護されます。

- 患者さんがこの研究に診療データを提供したくない場合の措置

研究の被験者となることを希望なさらない場合、お申し出いただければ、ただちに研究対象から除外いたします。ただし、ご連絡をいただいた時点で既に、研究結果が論文などに公表されている場合や、研究データの解析が終了している場合には、解析結果からあなたに関するデータを取り除く事が出来ず、研究参加を取りやめる事が出来なくなります。

- 研究期間；病院長承認日～平成32年7月31日

- 医学上の貢献

研究成果は局所進行により手術が困難な膵がん患者さんに対する集学的治療後の外科治療の在り方を位置づける一助となります。

- お問い合わせ先

この研究にご質問のある方は、下記の連絡先までお申し出ください。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

当施設研究責任者：手稲溪仁会病院 消化器病センター 高橋 邦幸

〒006-8555 札幌市手稲区前田1条12丁目1-40

TEL:011-681-8111(代表)

研究代表者：

札幌医科大学附属病院 消化器・総合、乳腺・内分泌外科(教室) 木村康利